

東京オリンピックに向けて
全面通行止めの林道鹿曲川線は今?!



竹花 美幸

◆東京オリンピックに向けて

Q エストニア共和国のホストシティとしての今後の交流は。更に、オリンピックや事前合宿、選手等との交流に向け必要なボランティアアサイン等をどのように醸成していくのか。

A 来年度からはエストニア共和国サク市と中学生の相互交流を予定している。その他、エストニアの陸上競技の合宿受入れをはじめ、日本人オリンピック・パラリンピアンを招いての市民交流事業も計画している。具体的には、エストニアの選手が出場するパブリックビューイングや応援ツアーの実施等を考えている。ボランティアを募って佐久市らしいおもてなし交流を進めていきたい。

◆林道鹿曲川線はどうなるのか

Q 今後の整備について、できる所は進めるべきだがどうか。

A 通行可能区間は、今後も維持修繕及び林道改良を実施していく。通行止め区間についても、関係機関と協議を行い、事業実施について検討していく。



7年間全面通行止めの林道鹿曲川線

佐久市内の冬期間の農業について
臼田地区内の児童館について



高橋 よしえ

Q 佐久市内での農業機械による事故について。

A 年間一人平均の事故が発生している。事故は高齢者に発生する頻度が高い。

Q これからの事故対策と、農業者用の労災保険加入について。

A 佐久農業改良普及センター、JA等と協力しながら農作業事故防止に努める。国の制度として手厚い労災制度がある。この制度の周知に努め加入を呼びかける。

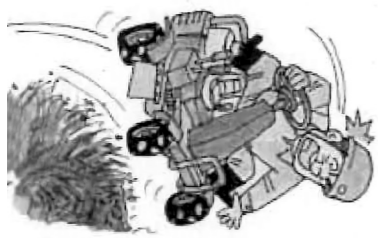
Q 市内で冬期間の農業栽培の可能性について。

A これまではあまり取り組みがなされてはなかった。今後は農業生産法人など従業員の通年雇用など年間を通じた収益の確保が求められる。現在、新規就農者によるハウレン草のトンネル栽培、長者原でのベビーリーフなどがある。

A ハウスでのトマト栽培について。望月協和地区でもみ殻を熱源としたトマト栽培、佐久市有機農業研究会での冬期間の野菜の栽培研究について可能性があるものと考えている。このように新たな取り組みについて佐久市として支援を考えていく。

Q 臼田地区新学校建設に伴う児童館整備について。

A 新小学校に通う児童の安全性、利便性通学方法、地域の皆様の意見を聞き検討する。



療育支援センターの増設を
学校給食のパンの委託先は市内業者に



内藤 悠子

Q 療育支援センターに通所する、重症心身障害児、発達障がい児が年々増加している。支援の必要性は明白。機能強化の形として、センターの増設はできないか。

A 機能としてのボリュームが求められている。二次障害を出してはならない。どう手立てをするか、研究しながらの対応は必要。

Q ライフステージに沿った切れ目のない支援は絶対に必要。保育園、学校での支援の現状と、サポートブック「虹のかけはし」の活用状況はどうか。

A 加配保育士は公立保育園で64人、私立保育園19人。小・中学校の特別支援教育支援員は49人。平成24年作成の「虹のかけはし」佐久市分500冊中、配布は188冊。

Q 配布も少ない。内容も使い勝手を検証し、沖繩のように改定を検討すべきではないか。



楽しく発達保障している療育支援センター

議員や職員は滞納してはならない！
太陽光補助金受領企業は雇用創出を！



飯島 まさのり

Q 議員や職員が滞納している実態が他自治体にある。市が議員を特別扱いし、税の徴収に手心を加えていたという事例もあった。議員や職員の報酬・給料は市民の税金から支払われている。滞納があってはならない。佐久市はそんな事がないか。あるとしたら、件数、滞納額を。

A 地方税法の守秘義務に抵触するので答えられない。

Q 個人情報観点、守秘義務の観点から考えても、件数、滞納額ぐらゐは答えるべき。滞納者がいないか。滞納額を。滞納者がいないか。滞納額を。滞納者がいないか。

A 市の理由で答えられない。税金の重みを感じるため、市長、議員も滞納整理を経験して欲しいが、できないか。

Q 市長就任時に考えたが、市民への影響を考え控えた。企業向け太陽光発電補助金が

A 発達障がい児支援担当者連絡会を充実させ、検討していく。

Q 2学期から給食のパンの委託先がモンドウルから丸子の炊飯センター柳澤に変更になった理由と、市外業者になった理由。

A モンドウルから辞退申出があり、替りを市内に見つけられず、長野県学校給食会が決定した。当事者の声を聞き、小規模業者に分ける事も含め検討を。

A 地元業者を優先するように、長野県学校給食会に話していきたい。

